

令和4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000817	事業の開始年月日	平成15年11月1日
		指定年月日	平成15年11月1日
法人名	株式会社メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう		
所在地	(〒259-1212) 平塚市岡崎5927-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果 市町村受理日	令和5年7月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度も引き続きコロナ情勢もある中で、外出等の機会が減りましたが行事企画の取り組みとして年間の行事計画を策定して全事業所が統一した行事を毎月実施いたしました。また年間行事以外にも各ユニットで様々な企画を上げて実施しました。取組みにあたりご利用者と職員が一緒になって行事の準備、創作等行いました。行事はInstagramにて発信しホームの様子を伝えていきます。またご家族にはこうした行事やお誕生日会等の写真を2ヶ月に1度送らせていただいています。職員研修につきましても今年度は年間8回のウェブ研修を取り入れ介護技術に日々取り組んでいます。ホーム内にあるふくろう畑は野菜とお花を植えて利用者様が気分転換できる場所として力をいれています。またお客様が気持ちよく、明るく、衛生的に生活できるように清掃等の環境整備にも力を入れています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月23日	評価機関 評価決定日	令和5年6月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

**【事業所の概要】**  
事業所は、小田急線伊勢原駅南口からバスで10分程の「みどりヶ丘」バス停前に立地している。2階建ての建物に隣接して、利用者などが野菜を育てている「ふくろう農園」がある。近隣には、岡崎福祉村や生活協同組合の店舗、身体障害者グループホームなどが点在し、重度化に向かうと、特別養護老人ホームや法人の有料老人ホームへの転居を希望する方が多く、スムーズに移行できるよう支援している。

**【利用者の思いや意向を把握し理念を実践】**  
調理専従の職員を配し、介護職の職員が利用者と関わる時間、触れ合う時間を大切にしている。職員は、ふくろう農園での畑仕事を共にしながら、利用者の思いや意向を把握して、ノンアルコールワインなどを嗜むことや趣味の編物の継続支援など、それぞれの希望に合うサービスを提供し、「ゆとりのある安心した生活を送ってもらう」という主旨の理念の実践に努めている。

**【コロナ禍での行事の実施と家族等への情報提供】**  
事業所はコロナ感染対策をして、全事業所統一の「年間行事及びホーム予定表」に基づき、花見や敬老会などを実施している。他に初詣や芋煮会、バラや紫陽花などの散策に出かけるなど、事業所独自の行事も実施し、利用者が楽しめるよう工夫している。Instagramにアップした行事の様子と、隔月に送付する「ふくろう通信」を通して、コロナ禍で面会できない家族の不安解消に繋げている。Instagramの発信については、契約時に「個人情報保護方針」に沿って、個人情報の収集は必要最小限とし利用目的の範囲内で使用する等の説明する際に、併せて写真掲載の了承を得ている。

**【法定研修の取り組み】**  
法人が企画した法定研修を、全職員が、個々の都合に合わせてeラーニングで受講している。職員は決められた期間内に受講報告書を提出し、管理者は報告内容を確認して、職員の理解度を把握している。端末操作が不慣れで受講が進まない職員には、管理者などが関わり、取り組めるよう指導している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう
ユニット名	1階幸せ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム幸せふくろう
ユニット名	2階幸せもり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と基本方針を事務所の見やすい場所に提示し、共有している。理念の内容についてはユニット会議にて唱和している。	「利用者と家族に『絆・愛・感動』を感じられるサービスを提供し、ゆとりのある安心した生活を送ってもらう」という主旨の法人の理念を事業所の理念としている。理念を事務所内に掲示し、ユニットごとの「スタッフ会議」で唱和し、共有している。職員は、利用者に関わる時間、触れ合う時間を大切にしながら理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会。利用者と一緒に回覧板回し、また、散歩や買い物を通して挨拶を交わすなど交流している。	みどりヶ丘岡崎自治会に加入している。回覧板を介して地域の情報を得ている。コロナ禍で公民館祭りなどの自治会の行事は、中止になっている。敬老の日には、自治会の役員が、祝いの菓子を持って来所している。「ふくろう農園」の作業時や散歩時などに近隣の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所や電話での問合せに対し、相談・助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ事情によりホームの運営状況報告書を2ヶ月に一度送っている。内容として空室状況、利用者のADLや生活状況、行事、事故内容の報告。今年度も報告書のみの開催	運営推進会議のメンバーは、家族代表、平塚市地域福祉村の副会長、自治会役員、地域包括支援センターの職員、事業所の職員で、偶数月に書面開催している。入居者利用状況、行事や事故報告などを記載した書類を地域包括支援センターの職員に郵送している。メンバーから特段の意見は上がっていない。	コロナ禍で書面開催となり、報告書類の送付が地域包括支援センターのみになっています。書面開催であっても構成メンバー全員に事業所の状況を報告し、意見を聞く機会を増やして、サービス向上に活用することを期待します。

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>不明な点などについては積極的に連絡、相談し解決に繋げている。</p>	<p>平塚市介護保険課の窓口を訪れる機会は介護保険関連の申請程度と少なく、必要書類は郵送している。実地指導や介護給付について、電話で相談している。事業所で新型コロナウイルス感染者が発生した際は、行政から検査キットやN35マスク、ガウン、手袋、消毒薬などが支給された。生活保護費を受給している利用者が4名おり、主治医から意見書を貰い、生活福祉課におむつ給付金の申請をしている。</p>	
---	---	--	---------------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針についてのファイルを設置し、その内容と弊害を認識し職員全員で共通の意識を持ち、身体拘束を必要としない状態の実現に努めている。ウェブ研修の実施	「身体拘束廃止の指針」を整備し、職員はeラーニングで「介護の力で虐待・身体拘束を無くそう」などの研修を受講した後、研修報告を提出し、学びを深めている。身体拘束適正化委員会のメンバーは常勤職員で、計画作成担当職員を中心に3ヶ月ごとに開催している。入所間もない帰宅願望のある方は、職員と一緒に外に出て気分転換している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症を正しく知り、職員間の報連相の徹底、細かな記録、気付き、言動を大切に、いつでも一般者の目で見られる意識をしている。ウェブ研修の実施	職員は、年1回、法人が作成した虐待自己点検シートで自己チェックしている。更に、スタッフ会議でも取り上げ確認している。虐待防止の指針の作成や、委員会の開催は未実施であるが、eラーニングで研修を行い、研修報告を提出し再確認している。虐待が疑われる行為を発見した際は、管理者に報告する事になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	判断能力や意思能力のハンディキャップを持つ、認知症高齢者の利益・権利擁護を視点にしたサービスが展開されることの意義が大きいことを認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約をする際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図るように努めている。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>認知症の症状のため、自らが十分に意思や希望を伝える事が困難な場合、家族が職員に気軽に意見、要望を遠慮なく伝えられる様な面会時の声掛け、電話連絡、便りを行っている。</p>	<p>コロナ禍で家族等と対面で話せる機会は少なくなっているが、定期検診の受診同行で家族が来所した際や、オンライン面会の時に意見などを聞くようにしている。家族会は設置していない。2ヶ月に1度、生活状況や健康状態などのお知らせと共に写真を掲載した「ふくろう便り」を発送し、利用者の様子を家族等に伝えている。「散歩や外出などの機会を増やしてほしい」との家族の要望に応え、感染対策を施して積極的に外に出ている。</p>	
----	---	--	--	---	--



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案はスタッフ会議等で反映させている。またスタッフからの意見等は管理者会議で報告、フィードバックしている 本部からの職員向けアンケートの実施	ユニット別にスタッフ会議を開催している。全体会議はないが、会議録を閲覧することで内容の共有を図っている。個人面談の機会が年2回あるほか、法人主体の職員向けアンケートを年1回実施し本部で対応している。反映には至っていないが、2人体制勤務についての意見や相談が職員から上がっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価の実施。面談を交えて、個々の長所・短所を評価して改善を図っている。また各自行動目標を毎月掲示して取り組みを行っている	人事考課制度があり、職員は事前に「目標管理シート」、「スキルチェックシート」、「基本介護技術の評価」を提出し、管理者は、年2回職員と個別面談をして評価している。健康診断の実施や法定有給休暇の取得、誕生日のクオカード贈呈などを通して、職場での環境整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフが受講できるようにウェブ研修を実施している 年間8回の必須研修を実施	職員は、年間研修計画に沿って、全員参加が基本の法定研修をeラーニングで受講している。外部研修の受講は、申請内容に基づき、法人から交通費の支援が得られる。受講内容は、提出必須の研修報告書を回覧し共有している。勤続1年に達すると、介護職員初任者研修の費用が法人負担となる。介護福祉士実務者と介護職員初任者の資格取得者には、手当が支給される。認知症介護実践者研修は、出勤扱いで、法人から費用や交通費の支援が得られる。新人研修の0JTは、常勤職員が担当し、期間は、3～5回勤務を目安としている。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ情勢もあり同業者はもちろん事業所内での相互訪問も実施できていないがズームで毎月行われているグループホーム管理者会議では双方の課題、事故の検証等の共有を図っている</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の症状のため、自らが充分に不安や困り事、意思を伝えることができない場合もあるが、出来る限り利用者が自己の感情表現を出せる様な声掛けや場作りをし、安心して落ち着いた暮らしになる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には特に連絡を密にし、日常の暮らしぶりや様子を伝えている。面会時にも、入居者の状況などを伝え、定期的に写真入り便りの発行、事ある毎に電話連絡し、ご家族の悩みや要望等を聴く機会をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の症状のため、自らが充分に不安や困り事、意思を伝えることができない場合もあるが、出来る限り利用者が自己の感情表現を出せる様な声掛けや場作りをし、安心して落ち着いた暮らしになる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中でお互い役割を持ち一緒作業を行ったり助け合ったりして支えあう関係を築いて行けるように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、家族と一緒に利用者を支えていく協力者としての関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、心がけ支援に努めている。	馴染みの人や場の把握は、見学時の会話やアセスメントで把握している。コロナ禍で友人の来所はない。電話の取り次ぎや手紙の投函などの支援をしている。利用開始以前からの習慣で、編物や畑の作業を継続している方がいる。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡する方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、関係性を把握し、交流が保てるよう橋渡しをしている。行事、レク活動を通して他者を認めたりする機会となるような場の提供に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・経過をフォローし、相談や支援していく事を伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの暮らし方の希望、意向の把握に努めている。本人が十分に思いや希望を表現出来ない場合は、ケース会議やユニット会議等で本人本位に基づく支援について検討している。本人の発言は記録に残している	利用者の思いは、日常の会話の中で把握している。新たに本人から聞き取った内容は、タブレット端末のケア記録に入力し職員間で共有している。思いを言葉で伝えられない方は、表情の変化を見逃さないように観察し、利用者本位に検討している。「晩酌したい」など、把握した思いは介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握するために、入居時の面接や「入居時アンケート」により情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態など総合的に把握するために、ケア記録・入居者連絡ノートを利用し情報共有、現状把握し適切な援助が行われるように努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人、必要な関係者と話し合いを持ち、会議に参加できないスタッフには事前に書面又は口頭で意見を収集し、皆の意見を反映し、具体的なケアプランを作成する。その内容を全職員が周知し、実行、評価し不適切があれば、その都度見直しする様にしている。	モニタリングは半年に1回、介護計画更新の見直し前に行っている。「課題整理統括表」の内容を基にスタッフ会議を開き、職員や医師、看護師などの意見を取り入れ、介護計画を見直している。状態に変化があれば、その都度見直している。家族の意見は、介護計画を作成する前に聞いている。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきなどを前向きな表現で記録し、情報を共有しケアプランの見直しや実践に活かせるように努めている。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能の十分な理解と、多機能を活かした柔軟な支援のあり方を模索している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの生活や馴染みの暮らし方の経過の把握に努め、本人の心身の力を発揮できるように、頻繁に、近隣ストアの利用を促している。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切にし、同意を得て、毎月2回の往診時にホームとの信頼関係を築きながら、24時間適切な医療を受けられる体制が出来ている。	月2回、利用者全員が24時間対応可能な協力医療機関の内科医の往診を受けている。毎週、看護師が来所し健康観察をしている。歯科と皮膚科は、必要時に必要な方への往診を依頼している。整形外科などの専門医への受診は、家族が同行している。受診内容の報告を受けて「入居者連絡ノート」に記し、共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、日常の中でとらえた情報や気づきを訪問看護師に伝え相談し、利用者が適切なケアや受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは、洗濯物交換やお見舞いに行き、ご家族や病院関係者との情報交換を行い、早期退院に向けた話し合いをするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて本人やご家族、また係りつけ医と話し合い、意向を尊重し様々な状況の場合に応じての説明、及び同意書を頂き、他職種と情報共有した上で連携を図っている。	契約時に、本人の希望や家族の理解、事業所の体制で対応可能と判断した時に看取りを実施する事を「重度化及び看取りに関する指針」で説明している。重度化して状況が変わった方は、スムーズに特別養護老人ホームや同一法人の有料老人ホームへ移れるように支援している。これまでに1名の看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医に2週間に1度の訪問診療があり、急変時も24時間係りつけ看護師に連絡が取れる体制になっている。会社全体で職員に必要な研修を検討し、研修の場を提供している。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間、火災時、地震時の場合に分けたマニュアルを提示してある。非常持ち出しファイル準備、防災マップ貼付。定期的に職員連絡網の更新	事業所は、災害想定地ではない。昨年6月に地震を想定した訓練を実施している。今年4月に通報訓練を行う旨の書面を消防署に提出している。コロナ禍で地域の方へ参加の呼びかけはできなかった。災害用備蓄リストを作り、利用者と職員を合わせた人数の3日分の食品備蓄している。	コロナ禍で地域との連携ができにくい現状にありますが、近隣の障害者グループホームや岡崎福祉村などに、災害時の相互協力体制の構築に向けて働きかけることを期待します。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の尊厳を守り、意思を尊重し、お客様の視点に立ち、誠意をもって行動します。という理念の共有化を図っている。	居室のドアノブには鍵があり、利用者が居室内から自由に開閉できる。入浴時やトイレ誘導時の声掛けは、プライバシーに配慮し、小声で対応している。呼称は苗字に「さん」付けを励行している。「個人情報の収集は必要最小限とし、利用目的の範囲内で使用する」ことなどを明示した「個人情報保護方針」を契約時に説明している。家族等から了承を得て、インスタグラムに写真を掲載し発信している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、出来るだけ利用者の思いや希望を引き出せるよう働きかけている。利用者本位のケアを心掛けている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活歴や馴染んだ生活習慣の情報収集をし、外出や外食など日課以外でも定時や、業務優先にせず、柔軟に一人ひとりの希望やペースに添った支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択、整容の乱れ、汚れ等に対して、プライドやおしゃれをしたいという思いを大切に、さりげなく対応するように努めている。			

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援          食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>彩りや盛り付けを工夫し、個人の状態に合わせた食事形態で提供して。利用者がお盆拭き、食器洗い、食卓の消毒などの役割を持っている。個別で刻みやトロミ食の対応。</p>	<p>食材業者から配送される食材と献立表に基づき、職員が調理している。夕食の下準備と昼食を調理専門の職員が作り、朝食は夜勤者が、夕食は遅番が作っている。刻み食などに対応している。利用者は、食器洗いなどのできる事を手伝っている。誕生日は、利用者の好みの寿司やケーキ等を提供している。季節に合わせて、正月には、おせち料理を提供したり、秋には芋煮会を実施するなど食事を楽しむ工夫をしている。特別行事の際は、ノンアルコール飲料を提供している。また、1～2ヶ月に1回、お好み焼き作りや餃子パーティーを実施し、食事を楽しめるようにしている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけ、メニュー作りをしている。疾病や体重変化、体調に留意したうえでケア記録に記録し、情報の伝達により適切な対応ができるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを支援し、夕食後は義歯の手入れを職員が行う。歯科の訪問診療の必要があれば、受けられるようになっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗で出来るだけ不快を感じることがないように、利用者のサインを見逃さず誘導するように努めている。個別シートで排泄のパターンを把握し、随時誘導し、オムツは最終手段と意識している。	利用者の排泄パターンや習慣に合わせて、時間誘導や利用者の様子などから判断して声を掛け、トイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠優先とし、吸収力のあるパットを使用する方もいる。改善には至っていないが、日々のケアにより失禁の回数が減り、パットが不要になった事例が多数ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し原因を考え、1日の水分量、食材の工夫、乳製品の取り入れ散歩や運動、排便誘導などの促進に取り組み、出来るだけ自然排便を促すよう努めている。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>1人で入浴できる方は余り干渉せず個々に応じた対応を行っている。季節感を味わえるように入浴剤、菖蒲湯やゆず湯等を提供している。出来る限り湯船に入ってもらうように手すりを設置。</p>	<p>概ね1週間に2～3回、午前中に入浴している。現在、同性介助を希望する方はいない。湯船を跨げない利用者には、シャワー浴で対応している。羞恥心が強く入浴を好まない方には、往診医の声掛けで入浴した事例を参考に、職員が白衣に着替えて入浴を促すなどの工夫をしている。しょうぶ湯やゆず湯を取り入れ、季節を感じながら入浴を楽しめるようにしている。ひとりで入浴し、開放感を楽しむ方もいる。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動（体操・散歩・レクリエーション・買い物等）を心掛け自然な眠りを導いている。又、記録で睡眠パターンを把握している。必要時は、主治医や訪問看護師にアドバイスを受けながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は回覧にて皆が周知できるようにしている。また、個別の服薬ファイルにて目的、用法、副作用について確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や、趣味等情報得て、その方に見合った役割、楽しみや出番を見いだせるよう場面作りの支援をしています。（洗濯干し・たたみ、盛り付け、歌、掃除、畑作業）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ事情により外出制限中であるがドライブ等や散歩も含めてできる限り外気に触れる機会を作るようにしている。	日常的な外出は、感染リスクを考慮しつつ、年間行事計画に沿って実施するように努めている。桜やバラ、紫陽花の散策や、ドライブに出かけフードコートで今川焼を食べるなどで戸外に出ている。日向ぼっこや散歩、農園での作業などで外気に触れる機会を作り気分転換が出来るよう支援している。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、預り金の対応はしてません		
----	--	---	-----------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙やはがきは早急に本人に渡し、必要があれば代読するなどしている。本人、相手からの要望時電話を繋ぐ支援をいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでもあるリビングはお客様が快適に過ごせるように定期的にレイアウトを行い見直しをしている。季節の花や季節の創作品を飾っている。	リビングは、エアコン等で温度・湿度管理をしている。ブラインドで日差しを調節し、定期的に窓を開けて換気に努めている。日常清掃の他、年2回、清掃業者に依頼して、床のワックスがけや窓の掃除、エアコンのメンテナンスを行い、環境を整えている。ひな人形の段飾りや、プランターでパンジーなどを育て、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がホーム内で迷わない様、トイレ等の表示をし、自身で安心して自由に移動できる環境作りをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に留意して誕生日カード、写真、レクで作った装飾等を飾り出来るだけ居心地良く過ごせるように努めている。利用者によっては、テレビや馴染みの家具を持ち込んでいる。	居室には、エアコン、クローゼット、照明、電動ベッド、カーテンが備えつけられている。利用者は、テレビ、遺影、鏡、化粧品、テーブル、写真、カレンダー、ぬいぐるみ、絨毯など馴染みの物や好みのものを持ち込み、個性ある居室になっている。居室担当の職員が衣替えなどを行っている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がホーム内で迷わない様、トイレ等の表示をし、自身で安心して自由に移動できる環境作りをしている。		
----	--	---	--	--	--



## 目標達成計画

作成日：令和 5年 3月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	「利用者本位」と「利用者の権利擁護」を最優先に考えながらゲストの思い、意向の把握に努めようとする姿は見られるが、スタッフ個々の意識レベルに差があり、温度差があるのが現状としてある。	スタッフの能力向上のため、日々『なぜ』と思うことを調べる・聴くという習慣を持つことを目標に教育していく。習慣づけしていくことで根拠を理解したケアができるようにスタッフ一人一人がなっていくような風土作りを行う。また、スタッフの良いところを引きだせるような体制づくりの構築をする。	一つ一つのケアには根拠があり、その理由を把握せずにケアをしているスタッフが多くいるため、日々『なぜ』と思うことを調べる・先輩職員へ聴く習慣を持つということをまずはフロアリーダーを中心として呼びかけていく。調べたり聞いたりしていくことで根拠を理解したケアを行えるようになるようになる。また、そのことによって聴かれた職員も考える、調べる習慣が相互で起きるため全体の底上げ、意識レベルの向上を図る。	10ヶ月
2	34	ゲストの体調観察を行う上で、状態変化に気がつくことができない、または、体調変化に応じた適切な対応が行えていない。	体調観察を行う上で、まずは日々の状態を知ることに重点をおく。状態変化への早期発見、早期対応を行うことができるようになる。	体調観察を行い、ゲストが安心して過ごせるよう日々の状態観察(通常時のバイタル、表情、様子)の把握をすることで、異常時の変化へと気がつけるように指導していく。また、緊急時対応研修などを実施することで知識・技術の向上を図る。	10ヶ月
3	35	環境整備が十分に行えていない。	研修やフロア会議、日々のミーティングを通して、再度、リスクマネジメントへの意識を持ってもらう。	KYT研修などを通して、ゲストの居室やフロアの整備が行き届いているかを確認し、どのようなリスクがあるかを考えさせ、意識統一を図る。	10ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。